

# 第61巻 芝の違いと芝目の話

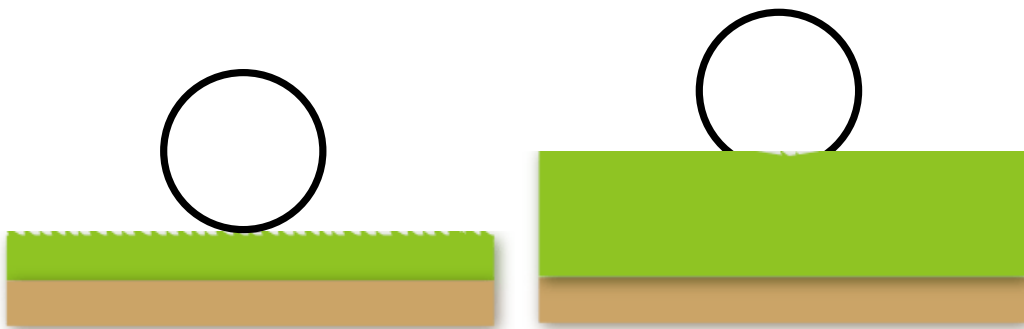
芝には、色々な種類がある。日本は南北に長い地域により使用している芝は違う。我々プレーヤーは、詳しいことは知らなくてもよいと思うが、最近是他地域でプレーするプレーヤーも多いので芝の特徴を覚えておいて損はないだろう。

この項は、芝草管理の書籍と、北海道のゴルフ場のグリーンキーパーからの聞き取りを参考にして作成。  
(基本的には、各地域のゴルフ場の芝の使用状況を記載しているがパークゴルフ場も準じる)

## 1、芝の種類

### ○日本芝と西洋芝に分けられる。

日本芝は暖地型のみで、西洋芝は、暖地型と寒地型の両方の種類がある。  
暖地型の芝は、寒い時期に冬枯れし芝が赤くなるため緑色のペイントをしているコースもある。  
(大体11月～4月までが冬枯れの時期で、5～10月が緑化期間といわれるそうだ)



葉が太くて硬い和芝のフェアウェイはボールが浮く  
【野芝、高麗芝、姫高麗芝】

葉が細くて柔らかい洋芝のフェアウェイはボールが沈む  
【寒地型(関東から北) ベントグラス、フェスキューなど】  
【暖地型(関東から南) バミューダ、ティフトンなど】

### (A) 日本芝

日本在来の芝で、暖地型は寒い場所で枯れるため暖かい地域で使用される。

#### ▼野芝

- ・3種の中で一番耐寒性に強く、管理に手間がかからない。
- ・ラフで使用されることが多い。

#### ▼高麗芝

- ・最もポピュラー日本芝。
- ・ボールが浮きやすい。

#### ▼姫高麗芝

- ・3つの中で、最も葉幅が狭く、密度濃く生える。一方で踏圧に最も弱い。
- ・グリーンで使用されることが多く、芝目が強いので球の転がりの影響を与えやすい。
- ・最近のグリーンの芝は、高麗芝は少なく、ほとんどこの芝になっている。



## (B)西洋芝

(暖地型)→おもに沖縄県

### ▼バミューダグラス

- ・沖縄のグリーンに使用されていることが多い。
- ・芝目がきつい



### ▼ティフトングラス

- ・バミューダグラスの改良版

((寒地型)→おもに北海道や標高の高い地域

### ▼ベントグラス

- ・葉が柔らかく、芝目が出来ずらいために高速グリーンを作れる。
- ・改良型の、ニューベント(ベンA2など)によって夏の高温多湿にも耐えられる品種もできている。



北海道のコースでは、「ロンスケープ  
輪厚」「恵庭花夢里・里・岳コース」  
ミニゴルフ場をパークゴルフ場にした  
コースなどがある。

### ▼ライグラス

- ・北海道のラフに使われている。

### ▼フェスキュー

- ・寒地型と暖地型の性質を持っている芝で北海道のラフに使われている。

### ▼ケンタッキー・ブルーグラス

- ・北海道のフェアウェイに使用されている。

※北海道のパークゴルフ場ではライグラスとケンタッキー・ブルーグラスを使用しているコースが多い。

※実際には、組み合わせにより、上手に対応している。

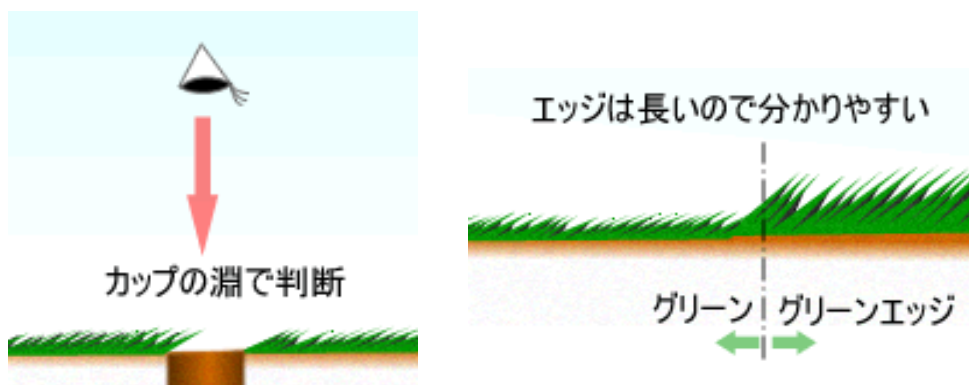
## 2、芝目

芝目は、水、日光、風の影響でできるといわれるが、最も影響のあるものは、水である。山の傾斜のあるコースでは、谷側に、そして池や川(クリーク)などが近くにある場合は、そちらの方向に芝目は向く。次は、日光の影響により西側に順目になる特徴を持っている。絶対ではないが、方角を把握しておくことも、芝目を読む場合のポイントとなる。下記に芝目の読み方のポイントを掲載する。

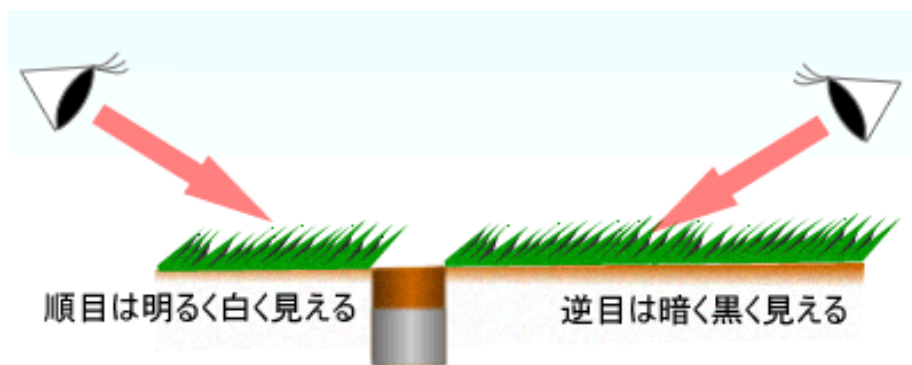
- ・水のある方向に順目になる。



- ・カップの上から見て芝がどちらに流れているか見る。グリーンエッジで見る方法もある。



- ・フェアウェイでもグリーンでもそうだが、白く見える場合は順目、黒は逆目→光の反射により色で見分けられる。





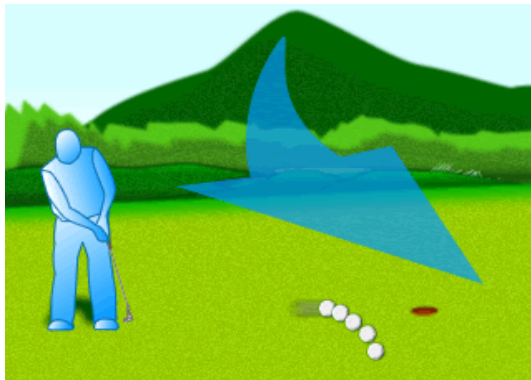
順目は白っぽく見える



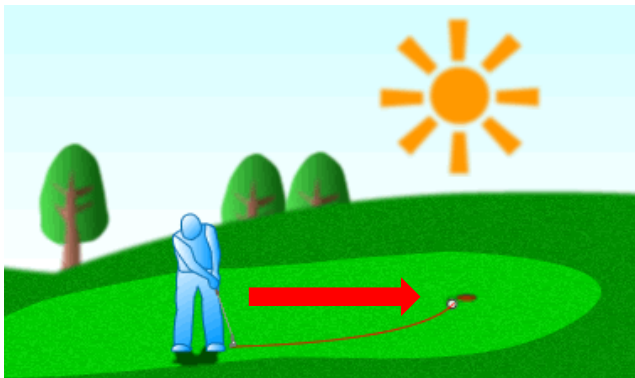
逆目は黒っぽく見える

※写真では、わかりづらいですが、肉眼で見るとよくわかります。

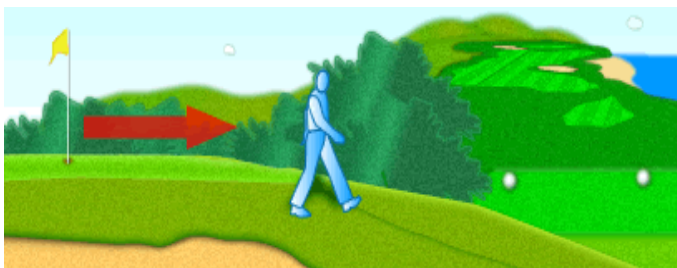
・「山から順目」が多い→芝目は雨水の流れに沿って決まりやすい。高いほうから低いほうへ順目。



・太陽の方向へ順目→芝は太陽に向かって伸びる習性。(西側に順目)



・次のティーグラウンドに向かって順目が多い。



上記は、絶対ではありません。グリーン中央から360度見て状況判断することが大事です。